

プロジェクト課題No. 1



担い手を核とした地域農業の継続・発展

◆ 対象名及び対象者数

気仙沼市 表山田・三段田地区

中心経営体 2 経営体及び主要農家 8 人

◆ 計画期間：令和 5 年度～令和 6 年度

◆ チーム員： ◎清水、早坂、菊池、門脇



本吉町館下

宮城県本吉響高

要害館跡

本吉町
津谷桜子

本吉町岳の下

馬籠川

メグミルク芳賀販売店

材木店

小宮山印刷工業
(株)宮城工場

ユーテック気仙沼支店

1 課題の背景

- 高齢化の進行や後継者不足により、地域農業の維持が難しくなっている。
- 農地は不整形で小区画、土水路が多く、大雨時には浸水や土砂流入。



- 担い手への農地集積を図るため、農地整備事業を活用し効率的な営農を推進。
- 園芸作物導入による収益性の確保。
- 水稻の省力化を図り規模拡大を可能にする。



地域農業の継続・発展を目指す。

2 今年度の目標

- (1) 地域農業の将来の在り方について地区で合意形成される。
- (2) 収益性を高めるため高収益作物が選定される。
- (3) 乾田直播栽培の技術を習得するとともに、規模拡大に向けた作期分散が可能になる。

【数値目標】

担い手への農地集積について合意形成に達した面積

R4：2.9ha→ R5：2.9ha→ R6：13.9ha

(1) 地域農業の将来の在り方について地区で合意形成される。

昨年度から継続して、

- ・ 役員会や全体会での協議
- ・ かわら版の発行



新たな課題

- ① ほ場整備に向けた計画では、費用対効果等から作付け面積の目安が示される予定であったが、作業が遅れている。



水稻・飼料作物・枝豆栽培面積が未決のため
必要機械・設備の検討は次年度

- ② 整備により畦畔がなくなることから、実際的水稻耕作面積（水張り面積）が増えることになった。



増加分25aは、水田以外の地目にする必要がある。



地元で協議中（施設用地等）

(2) 高収益作物（えだまめ）について



- 栽培面積は10a
- 4/27播種した青色の部分は、昨年度の作付けと同一（4.4a）
- 段播きにより収穫時期を7/27～8/14と昨年より7日延長⁸

(2) 高収益作物（えだまめ）について

①試験栽培の振り返り

	R5	R6
収量	479kg/10a	288kg/10a
収益	175,000円/10a	122,901円/10a



※播種・収穫の人件費除く

・明らかにになった課題と対応策を検討

課 題	対応
収量低下	ネズミの大発生、薬剤対応
連作障害対策	緑肥作物の効果検証
担い手の確保	方向性を継続検討
販売先の確保	方向性を継続検討



⇒次年度もえだまめの試験栽培を実施。

現在、課題を踏まえて次年度作付計画を検討中。

ネズミによる
食害と
思われる被害



(2) 高収益作物（えだまめ）について

①試験栽培の振り返り

	R5	R6
収量	479kg/10a	288kg/10a
収益	175,000円/10a	122,901円/10a



※播種・収穫の人件費除く

・明らかにになった課題と対応策を検討

課 題	対応
収量低下	ネズミの大発生、薬剤対応
連作障害対策	緑肥作物の効果検証
担い手の確保	方向性を継続検討
販売先の確保	方向性を継続検討



⇒次年度もえだまめの試験栽培を実施。

現在、課題を踏まえて次年度作付計画を検討中。

連作障害対策

- 連作障害（ダイズシストセンチュウ）対策として、枝豆収穫後、緑肥作物「まめ小町」を作付け。
- 緑肥作物の効果を検証するため、ほ場半分は緑肥を作付けせず。



まめ小町

(3) 乾田直播技術の習得と規模拡大に向けた作期分散

1 栽培の概要

ひとめぼれ、乾田直播栽培（ドリル・V溝）3ha

2 栽培技術習得支援に係る活動内容

- ・ 生育調査（ドリル播きほ場）の実施
- ・ 調査結果を基に追肥や病虫害防除等について検討
- ・ 振り返り検討（作柄や課題整理）



3/25 播種



7/10 ドローンによる追肥



9/4 生育状況

生育調査の結果（収量構成要素）

年	品種	穂数 (本/ m ²)	1穂籾数 (粒)	m ² あたり 籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)
R6	ひとめ ぼれ	280	66.8	187	79.1	22.5	33.3
目安 (目標 値)	ひとめ ぼれ	410～ 460	60～70	280～ 300	85～90	22.3	55.0

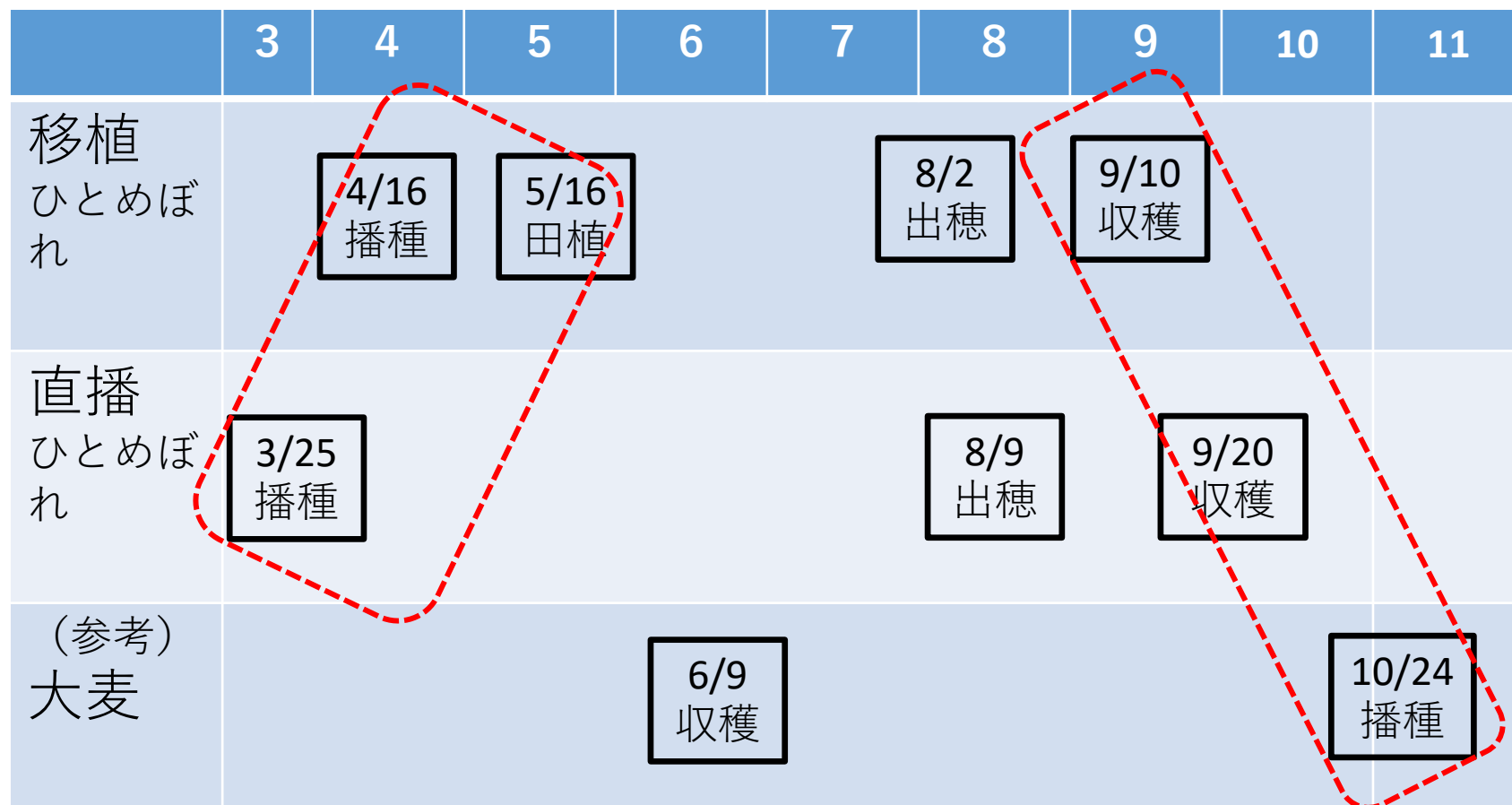
- ・漏水が発生したため茎数は少なく推移し、穂数は目安を下回った。
- ・葉色が淡く経過したことや登熟期間の日照不足により、登熟歩合は目安を下回った。

令和6年産の振り返りの内容

課題	R7対策（提案内容）
漏水した 原因は鎮圧不足と推測	①鎮圧回数を複数回にする ②ほ場を変更する
m ² 当たりの苗立ち数 が不足し、目標の100 本に届かなかった	①播種量を増やす ②乾燥粃ではなく吸水粃に変更 ③フラッシング（水田に軽く通水）の 実施
ほ場内の大きな生育 ムラが見られた	①田の均平を取る
雑草が多発した	①除草剤の使用時期を前倒し

作期分散の検証

- ・ 直播栽培では3月に播種し、出芽（5月）も順調だったことから春作業の分散化は可能。
- ・ 高温傾向により後半の生育ステージの差は縮小。生産者は春作業にメリットを感じている。



大麦栽培（ホワイトファイバー栽培2年目）

活動内容

- ・ 6年産の振り返り（課題整理）
 - ・ 7年産播種前の打合せ（作業内容や作業計画等）
 - ・ 播種等作業の立ち合い
 - ・ 生育調査の結果を踏まえた栽培管理の検討
- ⇒ 初年目の課題（播種時期や雑草対策）解決に取り組み、栽培管理を習得を図った。



10/24 7年産播種作業



11/15 草丈10cm前後
葉数2枚前後



12/12 草丈14cm
茎数904本/m²

3 目標に対する成果・達成状況

- (1) 地域農業の将来の在り方について合意形成に向けた検討が行われ、課題が整理・共有される

⇒合意に向けほ場整備に対する理解が共有され、計画時の目標は達成する見込み

- (2) 収益性を高めるため高収益作物が選定される。

⇒えだまめに決定。収量確保に向け試験栽培を継続

- (3) 乾田直播栽培の技術を習得するとともに、規模拡大に向けた作期分散が可能になる。

⇒漏水対策（ほ場の鎮圧）が不十分だった。直播栽培の導入により春・秋作業の分散化が可能

【数値目標】 担い手への農地集積について合意に達した面積

R4 2.9ha → R5 2.9ha → R6 13.9ha（達成）

4 対象者からのご意見

地域の将来について、構成員がある程度同じ認識を持っていることが分かった。促進計画について全体会での合意まで図られたが、これからが山場！ 役員が中心となって、これから具体的な詰めの話し合いがなされるので、関係機関ともども今後の指導をお願いしたい。

表山田・三段田地区ほ場整備推進委員会長

